

新潟県の養豚経営における 生産性向上事例集

～ 先進事例の工夫を取り入れ生産性を向上しよう～



平成22年3月

社団法人 新潟県畜産協会

生産性向上の取り組みと成果

季節に応じた温度管理の徹底

1

【取り組み】夏季

ダクトとファンを併用して快適な環境を維持した。

【成果】

肉豚事故率を 3% 以下に抑えることができた。



暑熱対策としてダクトを利用

2

【取り組み】夏季

種豚舎はドリップクーリングシステムで冷却効果を高めた。

【成果】

離乳から受胎までの日数が 9.5 日に短縮した。



ドリップクーリングシステム

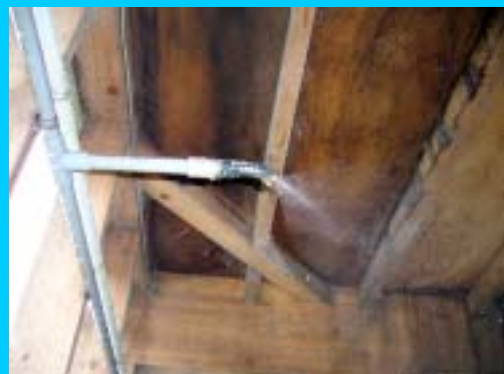
3

【取り組み】夏季

子豚舎は細霧システムで冷却効果を高めた。

【成果】

豚舎全体を冷却することで、肉豚の採食量が落ち込まずに済み、事故率の低下が図られた。



細霧システムで豚舎全体を冷却

生産性向上の取り組みと成果

季節に応じた温度管理の徹底

4 【取り組み】夏季
授乳期用の飼料タンクを遮光カバーで覆った。

【成果】
高温による飼料の腐敗を防止でき、無駄な支出を抑制できた。



遮光カバーで覆った飼料タンク

5 【取り組み】冬季
保温箱の床下からの冷気を遮断するため、エサ袋を敷き詰めている(再利用、低コスト)。

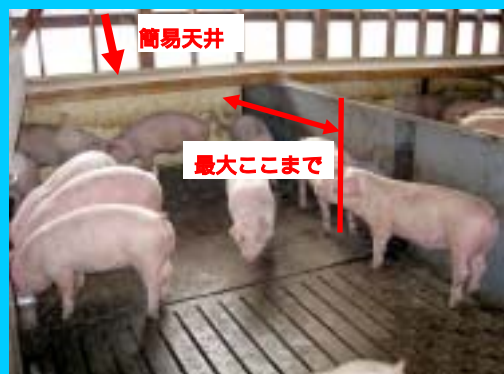
【成果】
冬季の離乳時育成率の向上を図ることができ、1腹当たり離乳頭数は9.9頭と多かった。



保温箱の床に敷いたエサ袋

6 【取り組み】冬季
肥育豚舎の窓際に手作りの折り畳み式簡易天井を設置した。


【成果】
窓からの冷気を遮断し、肥育日数の短縮と1日当たり増体量の増加が図られた。



折り畳み式簡易天井

生産性向上の取り組みと成果


種豚の個体別管理の徹底

1	<p>【取り組み】 母豚管理には、分娩予定月毎に色が異なる個体別管理カードを使用した。</p> <p>【成果】 分娩・離乳・里子・種付け日等を正確に把握することで現状の飼養管理状況が分かり、それぞれの処置や対応が迅速に行われて改善につながった。</p>	 <p>色が異なる個体別管理カード</p>
2	<p>【取り組み】 雄豚の前回の種付使用日が分かるように豚房にカードを設置した。</p> <p>【成果】 雄豚の種付使用頻度の偏りがなくなり、受胎率の向上、離乳から分娩までの日数短縮につながった。</p>	 <p>雄豚使用カード (使用した曜日を洗濯バサミではさむ)</p>
3	<p>【取り組み】 清掃と整理整頓の徹底により、衛生的な環境を維持した。</p> <p>【成果】 離乳から受胎までの日数が短縮され、分娩間隔は 148.1 日と短く良好であった。</p>	 <p>衛生的な種豚舎</p>

生産性向上の取り組みと成果

肥 育 豚 飼 養 環 境 の 改 善		
1	<p>【取り組み】 簡易離乳子豚施設を設置した。</p> <p>【成果】 清浄度の高い快適な環境で隔離飼育することができ、ストレスの抑制、子豚期の事故率の低減が図られた。</p>	 <p>簡易子豚離乳施設</p>
2	<p>【取り組み】 オールアウト後の豚房は、水洗、消毒、乾燥を確実に実施した。</p> <p>【成果】 衛生的な環境で、ストレスが少なく健康的に豚が成育した結果、1日当たり増体量の増加が図られた。</p>	 <p>洗浄・消毒した子豚豚房</p>
3	<p>【取り組み】 クリーンポーク生産農場認定基準に則した飼養管理を実施した。</p> <p>【成果】 衛生的な環境で飼養したことで長年にわたり低い事故率を維持している。</p>	 <p>健康的で発育の良い子豚</p>

生産性向上の取り組みと成果

地域防疫体制の確立	
<p>1</p> <p>【取り組み】 隔離豚舎を設置した。</p> <p>【成果】 隔離豚舎の利用により、外部からの病原体の侵入を阻止することで、オーエスキー病、PRRSの洗浄地域を維持している。</p>	 <p>隔離豚舎で病原体侵入を阻止</p>
<p>2</p> <p>【取り組み】 防疫対策協議会と隔離豚舎組合で定期的に勉強会を開催した。</p> <p>【成果】 後継者や若手従業員の育成・スキルアップを図ることができた。</p>	 <p>消毒後の隔離豚舎内部</p>
<p>3</p> <p>【取り組み】 「無断立入禁止」の看板を設置した。</p> <p>【成果】 地域ぐるみの防疫体制を周知し、関係業者、地域住民等の往来を制限でき、病原体の養豚場への侵入防止対策が一層強化された。</p>	 <p>設置した看板</p>

生産性向上の取り組みと成果

低コスト化への取り組み

1 【取り組み】
低コスト資材を再利用した。

【成果】
低コスト資材を再利用することで初期投資費用の低減が図られた。



古電柱を再利用した堆肥舎

2 【取り組み】
飼養管理マニュアルに基づく飼料給与内容の統一化、飼料の共同購入を実施した。

【成果】
飼料の購入を一元化し、購入単価の引き下げに努め、低コスト化が図られた。



共同購入飼料を入れる飼料タンク

3 【取り組み】
食品残さ(せんべい、餅)を肉豚用飼料に添加した。

【成果】
飼料購入費を抑えるとともに、増体量の改善を図ることができた。



食品残さを利用した飼料

飼料価格の高止まりと生産物価格の低下に対して、各種の経営安定対策が講じられていますが、畜産経営においては、より一層の生産性向上やコスト低減が不可欠となっています。

今回、県内の養豚経営が生産性向上に取り組んだ成果を取りまとめました。

是非、参考にして生産性向上を図りましょう。

〔お問い合わせ先〕

社団法人 新潟県畜産協会

新潟市西区山田 2310-15

TEL : 025-234-6781 FAX : 025-234-7045

Eメール : shien@ae.wakwak.com

畜産協会では、畜産経営相談窓口を開設しています。

各種資金の借り入れ、経営安定、生産性向上、コスト低減のための方策等についてお気軽に御相談ください。